

江戸の鎌倉案内 現代風に

「過去に思いはせ散策を」

「相州鎌倉絵図」アレンジ

鎌倉市で旅行ガイド業を営むマガロン依子さん(50)が、江戸期に旅行地図として親しまれた「相州鎌倉絵図」を現代風にアレンジした「令和版」を発行した。地元の寺院や屋敷跡、歴史などにスポットを当てたイラスト付き地図で、マガロンさんは「地図を手で過去の時代へ思いをはせながら散策を楽しんでほしい」とPRしている。(川崎大輝)

1685年(貞享2年)に水戸黄門として知られる徳川光圀が編集させた「新編鎌倉志」が出版されたのを機に鎌倉旅行がブームとなり、地図の役割を担った絵図も流行したという。鎌倉の歴史に詳しい長谷寺の学芸員三浦浩樹さん(54)は「絵図は少なくとも50版が刊行され、当時のベストセラーだった」と語る。

フランス人の夫を持つマガロンさんが令和版として「相州鎌倉今昔絵図」の制

作を思い立ったのは、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送前の2021年冬。ガイド業を始める計画があり、「歴史心と想像力を刺激する場所へ案内したい」と考えたからだ。

知人から譲り受けた明治期、図書館に所蔵された江戸中期などの絵図を参考に作成。鎌倉の地名、神社や仏閣など300近いスポットを書き入れた。三浦さんの協力も得て現地を訪れて確認し、屋敷跡など現代の地図には載っていない情報や地名も紹介。2年ほどかけて発行にこぎつけた。

今はスマートフォンを操作できれば目的地にたどり着ける便利な時代だが、マガロンさんは「ここではこんなことがあったのだと、思いをはせる時間を超えた旅も奥ゆかしい」と話している。絵図はA2判カラーで、税込み1100円。市内の書店で購入できる。詳細はマガロンさんの旅行ガイド会社「時間旅行社」ホームページ(<https://jik-an-ryoko.jp/>)を



「相州鎌倉今昔絵図」を制作したマガロンさん(鎌倉市で)